

兵庫県立西宮病院 地域医療連携室便り

はまかせ

2010年5月
第17号

地域医療支援病院の承認にあたって

病院長 藤本 高義

立ち去り型サボタージュといわれる勤務医不足や医療費抑制など様々なことが原因となり、医療崩壊が叫ばれている日本の医療を再生させ、地域医療を救済する手立てとして地域医療連携が注目されています。

昨年の政権交代によりこれまで続いてきた診療報酬のマイナス改定が10年ぶりにプラス改定になりました。今回の改定では、急性期入院医療に重点が置かれ、地域医療再生を目指したものになっています。

「十年一昔」といいますが、この10数年の間に医療の分野は日進月歩の速さで大きく変貌を遂げ続けています。コンピューターを基盤にした高度先端技術の導入による医療技術の高度・専門化、生活習慣病に代表される慢性疾患への疾病構造の変化、急速に進む社会の少子高齢化、専門性やケアを重視する患者の医療に対する意識変化、医療法改正による医療提供体制の変化などにより、医療機能の集中と分化が進み、1つの病院や1つの診療所では医療が完結できなくなりました。

2006年に成立した第5次医療法改正では、医療計画の見直しと患者中心の医療の実現が盛り込まれました。従来の自己完結型の医療から診療所と診療所、診療所と病院、病院と病院、あるいは病院と介護施設が相互に円滑な連携を図り、それらの有するそれぞれの機能を最大限に活用して、住民が地域で継続性のある適切な医療を受けられるようなためのネットワークを主体にした地域完結型医療の医療連携が求められるようになりました。医療連携を円滑に進め、患者を支えていくには、連携に関わる者同士の「顔の見える連携」と「情報の共有」が不可欠です。

2008年4月から始まった新しい医療計画では、4疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病）5事業（救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療）ごとに医療連携ネットワークを構築することになりました。そのツールとして医師、看護師、薬剤師、リハビリテーションスタッフ、栄養士などの多職種が参画する地域連携パスが活用されています。既に大腿骨頸部骨折の連携パスは2007年に、脳卒中の連携パスは2008年に診療報酬の評価を受けて、広く運用されています。

私たちの施設での地域医療連携の歩みを振り返ってみますと、1994年3月に地域医療連携室が院内に設置されました。同年4月には西宮市医師会と「医学の進歩に対応して地域医療の質的向上を図り、地域住民の健康増進・福祉に寄与する」ことを目的として、医療情報ネットワークの構築に関する協定が結ばれ、病院と診療所の役割分担を明確にした病病・病診連携が取り組まれるように

なりました。2003年6月にMSWが医療相談室に配属され、2004年10月には「西宮市医師会医療連携システム」の連携医療機関として、一層の連携促進のためにシステムに参加している診療所と連携登録医制を設けました。2005年4月には初代の地域連携担当部長として三木均内科部長が、翌年4月には乾由明内科部長が後任に就任し、2008年4月には福島芳江看護部次長が地域連携担当課長になりました。今年度はNTT西日本大阪病院から医療連携担当参事・外科部長として矢野浩司が赴任しました。地域医療連携室の重要性が増すにつれ担当メンバーも増員になり、現在は参事、部長、看護師3名（課長を含め）、MSW（医療ソーシャルワーカー）4名、事務員3名が業務を担当しています。その精力的な活動状況は神戸新聞にも取り上げられ、当院の急性期医療を支えています。

今後は、ますます医療だけでなく福祉・介護との協働により地域を包括したネットワークを形成し、切れ目のない医療を提供していくことが一層重要になってきていきます。南阪神地域におきまして良質な地域完結型医療が展開できますよう皆様の御指導とご協力をお願いいたします。

地域医療連携室・医療相談室のご紹介

看護部次長兼地域医療連携課長 福島 芳江

新緑の候、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。昨年12月に地域医療支援病院の承認を受け、このたび、平成22年4月より、看護師、医療ソーシャルワーカーが増員されました。

今後も地域の医療機関の先生方や訪問看護師、福祉・保健関係者の方々などにご指導・ご協力を頂きながら、地域医療支援病院としての自覚をもち、今まで以上に地域医療連携の推進に努めて参りたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い致します。

【地域医療連携部地域医療連携課】

参事（地域医療連携担当）兼外科部長	矢野 浩司
診療部長兼地域医療連携部長	乾 由明
看護部次長兼地域医療連携課長	福島 芳江
（地域医療連携室）	
看護師	福田 和美 西山 則子
事務員	本間 澄 小比賀 純 岩本 和

(医療相談室)

医療ソーシャルワーカー

徳山 磨貴

高橋 典子

中村 行宏

畑 裕美

新任メンバーからのご挨拶

当院では、先にも述べましたように、地域医療連携室・医療相談室に計3名のニューフェースを加え、医療ソーシャルワーカー（MSW）4名、看護師3名の計7名の大所帯で後方支援を行うことになりました。

昨年末、地域医療支援病院に認定されることが決定し、当院が支援病院として地域へどのように貢献できるのかを皆で検討していたところ、突然、MSW 1名が退職することになってしまいました。どうしたものか・・・と不安を抱きましたが、すぐに新たな力強いメンバーの参入が決定し、心機一転新たな22年度をスタートさせることができました。

そこで、新たに加わった3名の紹介をさせていただきます。今までのスタッフ同様によろしくお願い致します。

☺ 西山 則子

4月に内科外来より地域連携室に移動してきました看護師の西山則子です。
患者様・ご家族様に寄り添った支援を目指して頑張りたいと思いますので、よろしくお願い致します。

☺ 畑 裕美

4月より着任致しました、畑裕美と申します。MSW として働くことは初めてですが、患者さんやご家族の思いを大切に、日々勉強させて頂きたいと思いますので、よろしくお願い致します。

☺ 中村 行宏

4月より入職致しました、中村行宏と申します。医療相談員職は初めての経験となりますが、先生方はじめ諸先輩方からご指導いただきながら成長していきたいと思っております。
何卒よろしくお願い申し上げます。



【看護部新規採用者オリエンテーションの講師を務めて】

地域医療連携室 福田 和美

地域医療連携室・医療相談室では、地域医療連携の機能や重要性を院内全体へ浸透させるため、あらゆる活動を活発に行っています。今年度は、看護部の新規採用者オリエンテーションの中で、90分間にわたる講義をMSW とともに行いました。

新規採用者に、地域連携の重要性を唱えてもなかなか、すぐには理解してもらえないのではないかと考え、講義のみに留まらず、実際の事例を挙げて退院調整をどのように展開させるかを新規採用者間で考えてもらえるようグループワークも企画しました。

グループワークでは、患者・家族を中心に療養生活について検討しており、どのグループも活発な意見交換が行えていました。その真剣に取り組む新規採用の姿を見て、当院の地域連携は一層向上されるだろうと、期待が高まりました。また、この研修を通し、私たち自身も新たに、地域医療の中核機関として、地域医療の質を一層向上させていかなければならないと今まで以上に気を引き締めることができました。

今年度も、地域の医療機関の先生方と連携をさせて頂き、切れ目ない地域完結医療の推進に取り組んでいきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い致します。

看護部新規採用者 地域医療連携オリエンテーション風景



「兵庫県立西宮病院の基本理念および基本方針」

【基本理念】

私たちは、患者さんの意思を尊重し、高度で良質な医療を提供することによって、地域社会に貢献します。

【基本方針】

1. 患者さんを中心としたチーム医療を推進します。
2. 地域と連携した急性期医療を提供します。
3. 救急医療（二次、三次救急、小児救急）に精力的に取り組めます。
4. 臓器移植、特に献腎移植を推進します。
5. がんや生活習慣病の予防と早期発見・早期治療に努力します。
6. 少子化時代にあつて周産期医療、母子医療を重視します。

— 編集後記 —

今年の春は寒暖の差が激しく、体調を崩された方も多かつたのではないのでしょうか？

昨年度は、DPCの導入に始まり、上半期に新型インフルエンザの流行で当院に限らず、地域の医療機関におかれましては多くの患者様の対応に追われたことと思います。

また下半期には日本医療機能評価、地域支援病院の認定を受けることとなりました。その機能・役割を十分発揮できるようにスタッフ一同でがんばっていきたくと思います。今後も地域の医療関係の皆様のご協力をよろしくお願い致します。

(検査・放射線部 安福 万紀子)

兵庫県立西宮病院

〒662-0918 西宮市六湛寺町13番9号
電話(0798)34-5151(代表) FAX(0798)23-4594
地域連携室直通 FAX(0798)34-4436
地域連携室 E-mail chiiki-kn@hp.pref.hyogo.jp